

**August 11, 1985**

**Cable No. 662, Ambassador Kato to the Foreign  
Minister, 'Problem of the Release of the American  
Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and  
Foreign Minister Shara)'**

**Citation:**

"Cable No. 662, Ambassador Kato to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Shara)'", August 11, 1985, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2017-0631. Translated by Stephen Mercado.  
<https://digitalarchive.umd.edu/document/270603>

**Summary:**

A telegram from Japanese Ambassador Kato to the Foreign Minister summarizing a meeting between Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Shara about the relationship between Japan and Syria and the American hostages in Lebanon.

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan  
Translation - English

注 意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)の主任若しくは記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

限定配布

極秘

大政重外外徴官  
務務典房  
次次典房  
臣官官審審長長

電 信 写

大外査特  
察担  
使研審室

博代表

総対文会厚情本  
活審察人電在儀警史

外報官	審報内 際外
文長	一二

領移長  
参一二旅査移

ア長  
審地中東  
参北東西

北米長  
審一二保

中南長  
審一二

欧長  
審西ソ洋  
西東

近ア長  
参アア

経長  
次参経漁途国  
審総経エ国博  
二ネ一

審海

経協長  
審政国開無  
参調技有理

条長  
審条協規

国長  
参政経人  
参軍社

科審  
科原

情調長  
審情析調  
審企安

総 番 号 R109081

主 管

年 月 11日 18時 07分 シ リ ア 発  
60年 08月 12日 01時 59分 本 省 着

近了局長

外 務 大 臣 殿

加 藤 大 使

米国人人質解放問題 (中やま特使とシヤラ外相の会談)

第662号 極秘 大至急

「限定配布」

10日午後7時40分より約1時間15分、中やま特使はシヤラ外相と外務省にて会談したところ概要次の通り (わが方本使他、先方ムアレム大臣室長が同席、通訳マツモト在イエメン大りん代)

中ヤマ特使：貴大臣の訪日及びアベ大臣の貴国訪問により日・シリアの双方において両国関係強化の為の地固めができ、自分も今回ナカソネ総理の特使として貴国を訪問し、日・シリア関係強化のためのじやつかんの手伝い出来ることをこう榮に思っている。先日日本で貴大臣にお会いした時は (自分のかた書きは) 中東調査会理事長ということだつたが今は日本・シリア友好協会の会長にもなつた。この二つの資格から日・シリア関係の掘じゆう発展に協力できることは自分にとって正に名よある使命である。今秋にはダマスカスで開催される日本週間の為、再びシリアを訪問させていただく予定であり今後しばしば貴国を訪問することになる。自分は今回ナカソネ総理からアサド大統領への親書を掲行しており、この親書に自分の今次シリア訪問の目的が非常に適確に説明されている。したがって外交慣例上じやつかん異例ではあるが

外 務 省

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

、貴大臣に右親書の写をお渡しするので一読いただければ幸いである。(としてシャ  
ラ外相に親書の写を手交)

シャラ外相：(総理親書の写を一読の後) 親書を注意深く読ませていただいた。アサ  
ド大統領は親書を受け取る際満足の意を表されると思う。「ア」大統領の日程の都合  
にもよるがわれわれとしても貴特使の「ア」大統領表けいを明日または明後日の午前  
にアレンジすべく努力したい。

中やま特使：

自分はナカソネ総理の親書をぜひとも「ア」大統領に直接御渡ししなくてはならない  
ので自分の当初の日程を変更することとなつても「ア」大統領にお会いしたい。(貴  
大臣の援助をえたいので、じやつかんの説明を行いたいとした上で1970年代まで  
の日本と1980年代の日本には大きな違いが起つた。70年代までは(日本は) 経  
済大国と言われるようになったが、他方政治面においては自づから小国であると考え  
、他国もその様に見ていた。ところが80年代には経済力の発展と共に日本の国際社  
会における一般的なかんずく政治的な責任が大きくなり、国民もぜん時この事を理解  
してきている。例えば今秋の国連総会にはナカソネ総理もアベ大臣も出席する予定で  
ある。また、来年は東京で先進国首能会議が開催される。

世界情勢が大きく動いている中で中東地域の平和と安定は、日本が最も関心を有して  
いる問題の一つである。日本としては平和に導くようなかん境造りに最大の努力を注  
ぎたいと考えているが、この関連で、日本政府及び国民はTWA機事件の際のアサド  
大統領の御じん力を人道的見地から高く評価している。自分の今次シリア訪問の最大  
の目的は、レバノンで依然とらえられたまとなつている米国人7名を含む外国人解

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

放のために最大限の努力を貴国に御願ひすることにある。本件については既にアベ大臣より貴大臣に御願ひしてあるが、ナカソネ総理が自分を派遣し重ねて御願ひすることとした真しな気持ちを御理解いただきたい。

シヤラ外相：

むろん自分は、ナカソネ総理及びアベ大臣が(人道的見地からの)善意を以つてレバノンにおいてとらえられている米国人7名を含む外国人の解放につきシリアに対し要請越されていることは承知している。アベ大臣がシリアを訪問した際にわれわれが述べた「シリアとしては現在レバノンでとらえられている人々の解放の為にできる限りの努力をする」という立場に変わりはない。レバノンにいるシリア官憲即ち治安当局は特にアベ大臣の話がうかがつてから、これらの人質のい所及びだれがかれらをゆうかいしたかにつき情報を収集している。このようなシリアの努力は「無この市民をゆうかいすることを否定する」との固い決意に基づくものである。現在のレバノン内部における困難な状況の為(シリアの努力の)成かにはあまり期待できず、積極的な結果が得られるという期待は小さくなつていと言わざるを得ない。われわれの最大の目標は、人質を生きのまま引きもどすということにあり、この為われわれの活動が人質に危険を持たらしてはいけないという点に配慮しているが、この事がわれわれの活動をさらに難しいものとしている。しかしわれわれはひ観的になつてはおらず、あくまでも人質の解放という結果に向けて努力する所存である、部分的にせよ、人質が解放されることを希望し近い将来よろこばしい結果となることを期待している。われわれが行つている努力は、シリアがレバノンの治安維持の為に行つている協力とも強い関連を有している。なぜなら、犯人達は、レバノンにおける無ちつじよあるいは(絶望

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

的な) 混らん状況を利用して犯罪を行つているからである。現在シリアがレバノンに行つている、治安維持の為の援助、国民合意の為の援助及びミリシア (民兵) からの武器取り上げの為の援助等全てが、人質解放に寄与するものと信じている。もう一度くり返し申し上げたいが本件について日本の取られた善意に基づくイニシアティブを高く評価する。わが国も人質解放の為に努力を続けて行きたい。またナカソネ総理とアベ大臣によろしくお伝えいただきたく、国連総会において、ナカソネ総理、アベ大臣に御会いできるのをたのしみにしている

中ヤマ特使：

明解な説明に感謝する。貴大臣とアベ大臣の努力により日・シリア関係はグローバルな関係に発展してきているが、この種の問題については日・シリア両国が話し合うということは一種の政治対話であり、政治的協力であると思う。過去の日・シリア関係においては経済面における対話はあつたが、今日、このような政治対話が行えるようになったということは、日・シリア関係の発展の成かであると言えよう。もしわれわれの共通の目的 (人質の解放) が実現されるならば、日本においてはシリアに対する「友人」としての感情が高まることになると思う。これは決してこ張ではなくナカソネ総理もアベ大臣もこの点は非常に強く意識しておられこの (日・シリア両国の) 連帯意識の高まりをてこととして、従来よりの経済、文化等の分野における関係を一層強化するためじん力したい旨自分の出発前に述べられた。

貴大臣より説明があつた通り、本件の解決が困難なことは理解できるが、居場所の判明している人質だけでも解放するという事は本件の全面的解決にとつて危険だろうか。

外 務 省

R109081-04

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

## 電 信 写

シヤラ外相：

問題はだれが、どこで、どの様に人質をこうそくしているかがわからない点にある。たまたま入手できた情報に基づき、自分達はその場所に行つてみると「もぬけの空」だったということがあつた。かれら(ゆうかい犯人)はいつも同じ場所にいるのではなく、居場所を転々と変えているようだ。

中やま特使：

レバノンの混乱した現状においては、結局シリアの治安能力に頼るしかないと思う。日本は米国と協力関係にあり、米国に対し日本の立場について明確に物をつたえる。そこで本件解決の為に日本として米国にちゆう告するとすれば、どんなことを言えば良いと考えるか。

シヤラ外相：

中東問題の解決と本件は直接的な関連はないというのがわれわれの見方である。実は2日前に、外国の報道機関が「シリアはアラブ首のう会議の間に人質を解放するだろう」と報道したが、これは全く根拠のないものである。このような外国報道機関は、シリアは人質解放によつてアラブサミットに対するシリアの立場から目をそらすことをねらつておるとしてた。人質がシリアの手中にあるかのごときことを言っているが全く事実ではない。シリアは本件を純すいに人道的観点のみからとらえており、これはTWA機事件解決直後に出されたアサド大統領の声明にも述べられている通りである。

TWA機事件においては、事態は非常に明確であつたが、レバノンで依然こうそくされている7人の米国人及びその他の外国人の場合には、いかなる状況でゆうかいされ

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

## 電 信 写

だれがらちしているかわかつていない。このような点がわかれば、全ぼうが判明する  
と考えている。困難なことではあるがわれわれはひ観的になつていない。

中やま特使：

本件がクウェイトにおける爆発事件の犯人取扱いに関連があるという見方があり、ま  
た他方で、米国がイスラエルに圧力をかけ、イスラエルが依然こう留しているシーア  
派レバノン人300人を解放させることが状況の改善に役立つとの見方もあるが、こ  
の点如何。

シャラ外相：

クウェイトでとらえられている者については、われわれは全く情報を有していない。  
イスラエルにとらえられているシーア派レバノン人の解放の問題と本件は全く関係が  
ないと思う。なぜならイスラエルがこう留しているレバノン人の解放については、T  
WA機事件解決の為に右レバノン人全員を解放するということが合意されているから  
である。

中やま特使：

TWA機事件の際の合意が実現されていない為に、本件人質問題の解決が一層難しく  
なつているということはないか。

シャラ外相：

この二つの問題は全く関連性がない。TWA機事件の際の米国との合意は39人のT  
WA機の人質が解放されれば、イスラエルがとらえられているシーア派レバノン人全  
員を解放するというものであつた。米国はこの合意を完全に実施していない点で非難  
されるべきである。

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

## 中ヤマ特使：

日本国民は、国際協力の為により予算を使いたいという希望を有しているが、このような考え方の一かんとして、日本は国際的な平和の維持の為に、本件について日本とシリアが行っているような協力を一層推進していきたいと考えている。このような政治面における協力が、従来より進められている経済・文化等の分野での協力の促進につながり、この経済文化等の面における関連強化が更なる政治分野における関係の拡大に資するというような形で日・シリア関係が発展していくことを希望している。

## シャラ外相：

日本の国際的な平和に対する認識、及び中東和平問題の解決が世界の平和につながっているという認識は、よく理解している。この中東和平問題に対するシリアの立場、条件については、自分の訪日の際にナカソネ総理及びアベ大臣によく説明したシリアを訪問されたアベ大臣に対してもよく説明した次第である。現実には、米国がイスラエルに対し政治、経済、軍事等にわたる全面的な援助を行っているが、これは米国のこの地域における平和に対する考えにつきわれわれに疑念をいだかせるものであり、われわれは米国はこの地域におけるは権を求めているのではないかと考えている。パレスチナ問題についての、いわゆるヨルダン・パレスチナ合意についてシリアとしては右合意はこの地域の平和になんら資することなく、逆にイスラエルとのがんめいな考えの人々を更にこぶすると共にアラブ諸国間の中東和平についての分裂を更に激化させることになり、この地域の情勢の困難さを増ふくするものと考えている。今回のアラブ首のう会議の目的はジョルダン・パレスチナ合意の認知にあつたがシリア他の多くの国々は右首のう会議をボイコットしたり、あるいは自国代表のレベルを下げ

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

極秘

電 信 写

て「おちやをにごしている」といつた状況にある。

中ヤマ特使：

御趣旨は帰国して伝えたい。わが方努力の含む意味も了解していただきたい。

シャラ外相：

大統領にはふくぞうなくお話しになるのが良いと思う。

御見込みにより関係公館に転電願いたい。(了)

Number: R109081

Primary: Middle Eastern and African Affairs Bureau Director-General

Sent: Syria, August 11, 1985, 18:07

Received: MOFA, August 12, 1985, 01:59

To: The Foreign Minister □

From: Ambassador Kato

Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Shara)

No. 662 Secret Top Urgent

(Limited Distribution)

From 7:40 on the evening of the 10th, for approximately 1 hour and 15 minutes, Special Envoy Nakayama met Foreign Minister Shara at the Foreign Ministry. A summary of the meeting's main points follows below. (Other officials and I attended on our side; Mualllem, director of the Foreign Minister's Private Office, attended on the other side. The interpreter was Matsumoto, charge d'affaires ad interim, Yemen.)

Special Envoy Nakayama:

Minister, your visit to Japan and the visit of Minister Abe to your country prepared the ground in both Japan and Syria for a strengthening of relations between our two countries. It is an honor for me to visit your country this time as Prime Minister Nakasone's special envoy and to be able to be of some help in strengthening relations between Japan and Syria. When I met you, Minister, the other day in Japan I was (my title was) chairman of the Middle East Institute of Japan. Now, I have become president of the Japan - Syria Friendship Association as well. In these two capacities, it is an honorable mission for me to be able to cooperate in the expansion and development of relations between Japan and Syria. I plan to visit Syria again this fall for Japan Week, which will be held in Damascus, and expect to visit your country frequently hereafter. I have brought with me this time a letter from Prime Minister Nakasone for President Assad. My purpose in this visit to Syria is explained very precisely in this letter. Accordingly, this is something of an exception to diplomatic practice, but I would be happy, Minister, because I am delivering it to you, if you would read it. (So saying, I handed the letter to Foreign Minister Shara.)

Foreign Minister Shara:

(After reading the Prime Minister's letter) I have carefully read the letter. I believe that President Assad will express his satisfaction when he receives the letter. We would like to work to arrange, depending on President Assad's schedule, a courtesy call on President Assad for tomorrow or the day after tomorrow.

Special Envoy Nakayama:

I must deliver this letter from Prime Minister Nakasone directly to President Assad, so I would like to meet President Assad even if we change the initial schedule. Minister, I would like your help, so I would like to offer something of an explanation. Great change has taken place between Japan as it was until the 1970s and the Japan of the

1980s. By the 1970s, (Japan) was said to have become an economic power. On the other hand, in politics, it still thought of itself as a small country. Other countries, too, saw Japan in that way. In the 1980s, however, together with the development of its economic strength, Japan's responsibility in international society, particularly its political responsibility, has grown. The Japanese people, too, have gradually come to understand this. For example, both Prime Minister Nakasone and Minister Abe plan to attend the United Nations General Assembly this fall. Also, the Summit of the Advanced Countries will be held next year in Tokyo.

Amid great changes in the world situation, the peace and stability of the Middle East is one of the problems in which Japan takes the greatest interest. Japan wishes to put utmost effort into creating an environment conducive to peace. In this connection, the Government of Japan and the Japanese people highly appreciate from a humanitarian viewpoint all the efforts of President Assad at the time of the TWA Incident. The greatest purpose of my visit this time to Syria is to ask your country to do its utmost for the release of the foreigners, including the seven Americans, who remain held in Lebanon. In regard to this matter, Minister Abe has already made this request of you, but I would like you to understand my sincere sentiment in again making this request of you as Prime Minister Nakasone's envoy.

Foreign Minister Shara:

I certainly understand Prime Minister Nakasone and Minister Abe making in good faith (from a humanitarian viewpoint) a request of Syria in regard to the release of the foreigners, including the seven Americans, held in Lebanon. There is no change in the stand that we stated at the time of Minister Abe's visit to Syria: "Syria is making every effort for the release of the persons held in Lebanon." The Syrian authorities in Lebanon, that is, the security authorities, having heard what Mr. Abe said, have been gathering information on the whereabouts of these hostages and who abducted them. Such efforts on the part of Syria are based on the firm resolution: "We say no to the abduction of innocent civilians." I have to say, due to the difficult circumstances in Lebanon at present, that one cannot hope for results (from Syria's efforts) and that the hope that positive results can be had have become smaller. Our greatest goal lies in bringing the hostages back alive. Therefore, it will not do for our activities to bring any danger to the hostages. Considering this, it makes our activities even more difficult. However, we are not pessimistic. We will work to the end for the release of the hostages, hope for the release of the hostages, even if only of some of them, and hope for a joyful conclusion in the near future. The efforts that we are making have a strong connection as well to the cooperation that Syria is undertaking for the maintenance of security in Lebanon. The reason for this is that criminals exploit the chaotic or (desperately) confused situation in Lebanon to commit crimes. I believe that all that Syria is doing in Lebanon now - such as offering help for maintaining security, help for national consensus, and help for disarming the militia - will contribute to release of the hostages. I would like to say once again that we highly appraise Japan's good-faith initiative on this matter. Our country, too, wishes to continue our efforts for the release of the hostages. Also, please give my best regards to Prime Minister Nakasone and Minister Abe. I look forward to seeing Prime Minister Nakasone and Minister Abe at the United Nations General Assembly.

Special Envoy Nakayama:

Thank you for that clear explanation. Minister, due to your efforts and those of Minister Abe, relations between Japan and Syria have developed into a global relationship. I believe that, Japan and Syria talking with one another concerning this type of problem is one kind of political dialogue and a kind of political cooperation. In the relationship between Japan and Syria in the past there was economic dialogue. Today, one can say that the ability of such political dialogue to be held today is a result of the development of the Japan-Syria relationship. I believe that, if our common objective (the release of the hostages) were realized, there would be an

increase for Japan in its feeling as a "friend" in regard to Syria. In no way is this an exaggeration. Both Prime Minister Nakasone and Minister Abe are very conscious of this. I was told before departing Japan that, with a heightened sense of solidarity (between Japan and Syria) as a lever, they would like to do their utmost to strengthen further the relationship that we have developed in the past in such fields as economics and culture.

We can understand that, as you have explained, Minister, this matter is a difficult one to resolve, but would freeing only those hostages whose whereabouts are known be a danger for the complete resolution of this matter?

Foreign Minister Shara:

The problem lies in our not knowing who took the hostages, where they did so, or how they did it. On the basis of information obtained on one occasion or another, we went to that place to see, but it was an "empty shell" by then. They (the abductors) are not always in the same place but seem to move around from place to place.

Special Envoy Nakayama:

In Lebanon's chaotic circumstances, I think there is nothing to do in the end but to rely on Syria's security forces. Japan, which is in a cooperative relationship with the United States, clearly communicates to the United States regarding Japan's position. So what should Japan advise the United States in order to resolve this matter?

Foreign Minister Shara:

Our view is that there is no direct connection between the resolution of the Middle East problem and this matter. Two days ago, in fact, a foreign country's media organization reported, "Syria will probably release the hostages while the Arab Summit is taking place." This reporting is completely without foundation. Such foreign media organizations have been saying that Syria has been attempting to divert attention from its position on the Arab Summit by the release of the hostages. They are saying such things as the hostages are in Syria's hands, but it is completely untrue. Syria has come at this matter purely from a humanitarian viewpoint, as was said in the statement of President Assad that was issued immediately after the resolution of the TWA Incident.

The situation in the TWA Incident was very clear. In the case of the seven Americans and the other foreigners who are still held in Lebanon, we do not know under what circumstances they were abducted or who was taken. If we understood such points, I think that we would know the whole picture. It is a difficult matter, but we are not pessimistic.

Special Envoy Nakayama:

There is the view that this matter is connected to the treatment of the criminals in the Kuwait bombing incident. On the other hand, there is also the view that the United States putting pressure on Israel, forcing Israel to release the 300 Lebanese Shiites who remain held there, would be useful in improving the situation. What do you think of this?

Foreign Minister Shara:

We have no information at all concerning those held in Kuwait. We think that there is

no relationship at all between this matter and the problem of the release of the Lebanese Shiites held in Israel. The reason is that, as for the release of the Lebanese detained by Israel, it was agreed to release all those Lebanese in order to resolve the TWA Incident.

Special Envoy Nakayama:

Has the resolution of this hostage problem not become more difficult because the agreement made at the time of the TWA Incident has not been realized?

Foreign Minister Shara:

These two problems have no relation to one another. The agreement with the United States at the time of the TWA Incident was that, if the 39 TWA hostages were released, then Israel would release all the Lebanese Shiites held there. The United States should be criticized for not having fully implemented this agreement.

Special Envoy Nakayama:

The Japanese people have the desire to use more budget for international cooperation. As part of such thinking, Japan, in support of international peace, wishes to further advance cooperation that Japan and Syria are conducting in regard to this matter. Such political cooperation is connected to the promotion of cooperation in such fields as economics and culture that we have promoted in the past. We hope that relations between Japan and Syria develop whereby their strengthening in connection to such aspects as economics and culture contributes to a further expansion of relations in the political field.

Foreign Minister Shara:

I well understand Japan's awareness in regard to international peace, as well as its awareness that resolving peace in the Middle East is connected to peace in the world.

As for Syria's position on and conditions for peace in the Middle East, they are as I explained to Prime Minister Nakasone and Minister Abe on my visit to Japan and as I explained to Minister Abe on his visit to Syria. In reality, the United States' giving to Israel aid in all aspects - political, economic, and military - makes us suspicious in regard to the thinking of the United States on peace in this region. We suspect the United States of seeking hegemony in this region. As for the Palestinian problem, regarding the so-called Jordanian-Palestinian accord, Syria considers that the accord makes no contribution to peace in this region. On the contrary, it further encourages stubborn people in Israel while further aggravating division among the Arab countries in regard to peace in the Middle East and also increasing the difficulties in this region's situation. The purpose of this Arab Summit is to acknowledge the Jordanian-Palestinian Accord, but Syria and many other countries have boycotted this summit or lowered the level of their country's representative. The situation is one of "speaking evasively."

Special Envoy Nakayama:

I would like to return to Japan with your message. I would like you to understand as well the meaning in our side's efforts.

Foreign Minister Shara:

I think it would be good for you to speak frankly to the President.

I would like you to please relay this to the relevant diplomatic missions. (End)